（別紙様式４－１）

（熊本県立水俣高等）学校　令和元年度（２０１９年度）学校評価表（定時制）

１ 学校教育目標

校訓「自律・敬愛・創造」のもと、互いを認め、励まし、個性を高めあう教育を推進し、知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって行動する力を備えた人材の育成をめざす。そのため、全教職員は一体となり、教育者としての使命と愛情を持って、家庭・地域社会との連携を深めながら、魅力ある学校づくりに努め、本校教育の充実・発展を図る。

２ 本年度の重点目標

本年度の指導の重点スローガン・・・「 さらなる高みへ　～Go beyond the limits～ 」

（1）健全な心身の育成
　ア　基本的生活習慣の確立と社会規範意識の醸成を図る。
　イ　自主・自律の精神を涵養する。
　ウ　他者を思いやり、命や人権を尊重する豊かな心を育成する。
　エ　学校行事等の取組をとおして、学校生活への意欲、他者との協調、達成感等の効果につなげる。

（2）学力の向上と進路指導の充実
　ア　授業の充実に努め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
　イ　基礎学力の定着と「わかる授業」の実践に努め、学習意欲の向上を図る。
　ウ　キャリア教育を充実させ、将来の目標設定と進路意識の高揚を図る。
　エ　個々の能力・適性・進路目標に応じた個別のきめ細やかな指導に努める。

（3）保護者や地域社会の期待に応える定時制教育の充実
　ア　水高定時制としての自覚と誇りを持たせ、郷土を理解し愛する心を涵養する。
　イ　情報発信と開かれた学校づくりに努め、本校教育への理解と信頼を高める。
　ウ　商品開発の取組等、地域社会と連携、協力した取組をとおして、社会の一員としての自覚や自信を高め、視野を広げる。
　エ　保護者との情報共有を図り、信頼関係に基づいた教育活動に努める。
　オ　防災型コミュニティ・スクールをとおして地域と連携した防災体制を確立する。

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	目標管理による学校運営の推進	学校目標の理解と重点指導の徹底	すべての教職員が、教育目標を理解し、定時制の特色を生かした魅力ある教育を実践する。 業務の進捗状況を確認し、業務が適切に遂行されるよう指導をする。	生徒への声かけを適切に行い、生徒が学校に適応するよう工夫しながら、生徒の自己肯定感を高める。 教師の授業力を高め生徒のやる気を引き出す。 優先順位が高い業務から取り組む。	B	生徒の様子を連絡会で共有し、適切な対応ができた。他校の公開授業やスーパーティーチャーの授業にも数名の職員が参加し、教科指導に生かすことができた。業務については概ね良好であった。
	安全で安心して学習できる教育環境づくりの推進	安全点検と緊急事態対応及び防災教育の徹底 一人一人の居場所がある学校づくり	教室及び施設等の安全点検を各学期に実施し、生徒の安全を確保する。生徒の様子を常に確認し、いじめや問題行動のない安全・安心な学校をつくる。	各学期に防災訓練を実施し、生徒の防災意識を高める。 生徒の状況を職員間で共有し、全ての生徒が楽しく学べる教育活動を実践する。 不祥事防止に全職員で取り組む。	B	各学期に安全点検を行い、施設面での生徒への安全確保はできた。行事等も充実し、生徒は楽しく学ぶことができた。定時制独自で行う夜間の避難訓練にも生徒は真剣に参加した。
	学校改革の推進	業務の効率化と職員の意識改革	各分掌において業務の見直しに関する検討を行い、課題の共有と業務の改善を図る。 超過勤務時間を、月平均２０時間未満にする。	報告・連絡・相談を徹底する。 気軽に相談できる環境をつくり、職場の風通しを良くする。 職員の超過勤務時間の実態を把握し、業務改善に全職員で取り組む。	C	職場の風通しは良く、報告・連絡・相談も徹底することができた。業務改善については、昨年度のものを踏襲することが多く、改善するまでには至らなかった。

	生徒理解の推進	生徒理解と課題・指導の共有化	年間５回以上、生徒理解のための研修会を実施し、情報を共有しながら、生徒一人一人に応じた的確な指導を実践する。 特別支援教育コーディネーター及び養護教諭と連携し、必要に応じて個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成し活用する。	教務部、生徒指導部、保健部が立案し、全職員で連携し、生徒の課題解決に取り組む。 生徒の困り感を把握し、関係機関と連携しながら合理的な配慮を行うことで、生徒の可能性を広げる。 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別支援教育に関する情報を共有し、本校での指導に生かす。	C	生徒理解研修では、生徒一人一人の課題を明らかにして情報共有を図ることができた。その結果、各生徒に適切な声かけや指導をする一助となった。個別の指導計画や教育支援計画の作成・活用、関係機関との連携が不十分であり、生徒の困り感を課題するための手立ては十分に行うことができなかった。
学力向上	授業力の向上	公開授業・研究授業・授業評価の実施	全職員が、それぞれ１回以上の研究授業を行う。また、ＩＣＴを積極的に活用し、生徒が主体的に学習をすすめる工夫を行う。	教務部が立案し、全教科で取り組み、保護者や近隣の中学校等へ公開実施の周知を行う。また他校の公開授業に積極的に参加するなど、教師の研修の機会を確保する。授業評価の結果を早期に分析し、授業改善に努める。	C	保護者や中学校、地域への公開授業の案内周知は行ったが、研究授業については、十分に行うことができなかった。年２回の授業評価の分析から各授業の改善に努めることができた。ＩＣＴ機器の活用は適宜できていた。
	基礎学力の向上	基礎国語など、学校設定科目や基礎科目の充実	学校設定科目や基礎科目で中学校の学び直しを行い、基礎学力の向上を図る。	教務部が立案し、当該年次、当該教科で取り組む。教師の授業力を高め、生徒のやる気を引き出し、主体的な学習を促す。	B	基礎国語やコミュニケーション基礎など、中学校からの橋渡し的な科目を準備することで、生徒のやる気を引き出し、成績についても改善することができている。
キャリア教育（進路指導）	個に応じた進路指導の推進	生徒個人の進路目標の明確化と卒業予定者の進路決定率や在校生の就労率の向上	卒業予定者の進路決定率をできるだけ１００％に高める。在校生の就労率を５０％に高める。商業関係検定受検を積極的に勧める。	卒業学年にあっては、各学期で進路面談を実施する。進路部と担任との連携を深める。商業科目を中心に検定前課外学習などを実施する。 校外での販売実習等へ参加する。	B	就職希望者の進路が未決定の生徒もいるが、継続雇用や職安を通じて活動中である。在校生の就労率は５８％となっている。 商業関係の検定受験も挑戦した。また、校外での販売実習にも参加した。
	進路意識の高揚	インターンシップや進路関係行事の実施	未就労者対象のインターンシップの実施や進路セミナーを実施する。講話等は各学期１回程度実施する。	進路部が立案し外部機関との連携を密にし、全職員で取り組む。	B	インターンシップも１年生３名が参加した。 その他の進路関係行事も実施できた。次年度も個別指導を中心に各行事に取り組む。
生徒指導	社会性の向上	登下校時における交通ルール遵守等の規範意識の向上	自転車・原付・自動二輪・自家用車の運転に関して、交通ルール、交通道徳を守り、事故がないことを目指す。	生徒会活動や学校行事（交通安全教室等）において、生徒指導部を中心に、生徒・職員全体で取り組む。	B	自動車学校で実践的な学習を実施し、HR、集会等での指導を通して、生徒の交通安全への意識を高めた。
		言葉遣い、時間厳守等の基本的生活習慣の確立	それぞれ異なる課題を持つ生徒に対し基本的生活習慣の改善を目指す。	連絡会や生徒理解研修を踏まえ、毎日の活動の中で職員間の共通理解を図り職員全体で取り組む。	B	連絡会等で生徒の状況を毎日把握し、職員間での共通理解のもと指導を行い、生徒は全体的に落着いている。
	健康教育の推進	禁煙指導・薬物乱用防止の徹底	喫煙者の増加防止と薬物使用の根絶を目指し、指導を行う。	喫煙の状況把握と健康に関わる講話を実施し、生徒指導部と保健部との連携により取り組む。	B	薬物乱用防止教室を実施し、生徒は薬物乱用の実態を知り、薬物や喫煙から身体を守る方法を学び問題はなかった。

人権教育の推進	推進体制の確立と研修の充実	職員の人権意識の深化向上と、生徒の人権に対する正しい認識	職員の校内・校外の年間研修計画の作成と実施。生徒の特別活動（ＬＨＲ）等年間計画の作成と実施。	外部の研修については、全職員が年に一回は参加し復講することによって、職員の学びを深める。人権・生徒指導部が立案し、学校全体で取り組む。連絡会要項の裏に、人権に関する記事を記載する。	B	全日制と合同の校内研修が実施できた。校外の研修については、昨年より多くの研修に全ての職員が参加した。復講も一部からではあるが、実施され成果の共有ができた。
	「命を大切にする心」を育む指導の推進	「命」や「生きること」の考察をとおした自己肯定感と他を思いやる心の育成	「命」の大切さの認識による自己肯定感の向上と、他者と良好な人間関係を構築させる。	授業や特別活動において、生徒が活躍でき、自分の居場所を感じることができるような場面をつくるよう、全職員で常に意識して取り組む。	B	特に、「総合的な学習の時間」や「特別活動」において、他者と協働する社会性や自立心、道徳感を培い育成することができた。
	教科指導における取組の推進	「分かる授業」の工夫と改善	生徒の課題に応じた学習指導の工夫をする。	教務部と協力して、「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」を全教科・全職員で取り組む。	B	「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業」に取り組み、生徒の自己有用感を育むことができた。
いじめの防止等	いじめの未然防止と事態への対応	生徒指導部及び、いじめ防止対策委員会を中心とした取組	いじめ件数ゼロを目指し、職員全員で情報共有を図る。また、面談を充実させ、生徒が相談しやすい環境づくりに配慮する。より迅速な対応を心がける。	各学期においていじめアンケートを実施し、全職員でいじめを許さない学校づくりを実践するとともに、年間を通じていじめ防止への意識を高く持つ。６月の「心のきずなを深める月間」においては、人権教育ＬＨＲを実施し、また「いじめ防止標語」を生徒に作成させ、いじめ防止の気持ちの涵養を図る。 重大事態発生時には、いじめ防止基本方針及び策定マニュアルに基づいて全職員で迅速に対応する。	A	全生徒の前で生徒会の代表が、「いじめを許さない宣言文」を読み上げ全生徒が「心のきずなを深める標語」を作成することで、いじめについて考えることになり、全生徒・全職員でいじめを許さない精神を醸成することができた。各学期に行ういじめアンケートの結果は、今年度もゼロを達成した。
特別支援教育	生徒の教育的ニーズに対応した支援の推進	個々の生徒に応じた支援計画の実施と、適切な指導の充実	支援を要する生徒の理解を深め、個々に応じた支援を推進する。生徒、保護者の教育的ニーズを理解し、合理的な配慮を行う。	生徒理解研修や日々の連絡会をとおして生徒の実態を把握し、職員の共通理解を深める。 スクールカウンセラーや専門機関と連携しながら、支援の検討を行い実施する。	C	生徒理解研修をはじめとして、生徒の状況を職員が共有できる場を常に持つことができた。特別支援の対象にあたる生徒について、具体的な支援を行うことができない場合もあった。
環境教育	地域と連携した環境教育の推進	「環境首都みなまた」実現のための学校版環境ＩＳＯの取組	全日制と連携を図りながら、学校版環境ＩＳＯ宣言項目の徹底した活動を行う。	宣言項目を基に生徒指導部を中心に生徒・職員全体で取り組む。ペットボトルキャップやコンタクトレンズケースの回収など、地域の活動に参加する。	B	生徒・職員で取り組むことが出来た。地域の活動にも全日制と協力して参加できた。しかし、ごみの分別が徹底されないことがあった。
	学習環境の整備と推進	学校生活を快適にするための環境づくり	教室や多目的室等の清掃活動を毎日実施する。環境美化意識強化週間を設け、意識向上と実践の定着を図る。	エコスクールチェックシートを活用し、環境美化に関する意識を向上させ、生徒・職員全体で取り組む。	B	毎日の清掃活動と月末のチェックシートの記入は、習慣化され全員で取り組むことが出来た。しかし、机周りやロッカーの整理整頓には個人差があり指導の工夫が必要である。

地域連携（ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｽｸｰﾙなど）	家庭・地域への定時制教育の周知	学校行事をとおしての定時制教育活動の広報と周知	学校行事や商業科の商品販売等をとおして、定時制教育の地域への発信を図る。	生徒指導部・教務部・商業科と連携して、定通総体・定通文化大会・文化祭等に取り組む。	B	生徒の積極的な参加が見られ、様々な行事での欠席者が減少した。また販売実習や商研発表などで本校の頑張りをアピールできた。
			ＨＰを最新情報にするため、行事後速やかに記事を作成し更新を行う。	副校長・教頭・教務部・総務部を中心に魅力ある記事を載せ、閲覧者を増やし、入学生の増加に取り組む。	B	ＨＰの更新をできるだけ早く行うようにしていたが、閲覧者の増加や入学生の増加には課題が残る。
		保護者会の開催と学校行事等への保護者参加の推進	「定時制便り」の発行及び終業式への案内を、継続して行う。併せてＬＨＲへの保護者の参加を促し、保護者相互の交流の場を企画し実施する。	総務部で役割分担を行い、生徒の様子が見える内容での作成に取り組む。ＬＨＲへの保護者の参加を促し、保護者相互の交流の場を企画し実施する。	B	毎月の定時制便りやＨＰ等で生徒の活動の様子を発信することができた。終業式への保護者参加の案内を行ったが、保護者相互の交流は企画することができなかった。
		防災型コミュニティ・スクールとしての防災システムの構築	地域と連携した避難訓練を実施し、さらに夜間での避難訓練を行い、さまざまな状況を想定して防災意識を高められるよう企画し実施する。	全職員と協力し、自然災害が発生した際における、在校中や登校前後の震災対策、地震発生時、火災発生時、津波発生時、大雨・台風災害の対応の方法を周知する。	A	水俣市合同防災訓練を実施し、全職員と協力して各役割での課題改善や夜間の避難について検討できた。また、消防署での防火訓練も実施することができた。

４　学校関係者評価

○生徒一人一人に手厚くきめ細かに指導していただき感謝している。他校では、個人に対してここまでの手厚い指導は考えられない。卒業生は水俣高校は楽しかった、水俣高校で良かったと言っている。
○私立高校はアピールが上手。第１希望はそれほど多くなくても、学校説明会が好評で大勢が体験入学に参加している。学校説明会をもっと工夫して、魅力あるものにした方がよい。
○地域の子どもの数が減少すると学校の存在にも影響を及ぼす。ＰＴＡや学校だけの問題ではなく、地域でとらえる問題である。行政も何か形としてしくみを作り上げ、先へつなげていかなければならない。

５　総合評価

（１）学校教育目標について
　知・徳・体の調和がとれ、自ら考え、学び、夢に向かって行動する力を備えた人材の育成を目指し、定時制商業科の特徴を生かせるよう教育活動に取り組んだ。今年度は、熊本県生徒商業研究発表大会に定時制から初めて参加し、本校生徒も堂々と発表することができた。
（２）本年度の重点目標について
　１年次からハローワークで自己の適性を学ぶなど、キャリア教育には早くから取り組んだ。また、スーパーティーチャーの公開授業や、各教科の研究会等に職員が参加したことで授業力が向上し、生徒に学習習慣が身につくよう全職員で「分かる授業」を実践することができた。
（３）自己評価総括表について
　学力向上については、国語、数学、英語を中心にキャリアアップ講座を行い、基礎学力の向上を図った。進路指導では、外部の講師を招き、コミュニケーションの基礎を学び、生徒の積極性の向上にもつながった。生徒指導では、職員連絡会で生徒の状況を細かく確認し合い、共有することで生徒に安全で安心な場所を提供することができ、「いじめゼロ」も達成した。特別支援教育については、特別支援教育コーディネーターを中心に、生徒理解研修を年間５回開催し、生徒の必要な支援を行うことができた。

６　次年度への課題・改善方策

○今年度の１年次生の中には、本校商業科で取り組んでいる商品開発や販売実習のことを知って入学してきた生徒もおり、来年度は更に充実させ、定時制教育を地域へ積極的に発信することで入学志願者を増加させる。
○中学校との連携をこれまで以上に密にし、より合理的な支援が行えるよう生徒理解に努める。
○多くの教職員がスーパーティーチャーの公開授業に参加することにより、生徒の学力を保証することができるような授業づくりに取り組む。
○外部の講師を招へいする講演会等を工夫し、生徒のコミュニケーション能力や積極性の向上につなげる。
○安心で安全な場所としての学校を確立し、今後も「いじめゼロ」を目指す。
○定時制独自の夜間に行う防災訓練を充実させ、生徒の防災意識を高める。